



家庭の同行^{どうぎょう} 9

〜ひき出されてゆく生きる力〜

茂吉(和田重良)

- 穴のあきそうな心を「満たしてくれる」もの
- つないだ手は離さない「信じている」こと
- あそこに帰れば迎えてくれること

「あんしんできる」こと

あそぶ まなぶ はたらく で自己教育

H(はたらく)の頭文字です。毎号巻末には遊学働と書いてあります。「くだかけ」の大切にして生活教育の基本の基本です。

あそべない・まなべない・はたらけない

人間だけでなく、およそこの世に存在する生き物すべてに言えることですが、「あそべない、まなべない、はたらけない」くらい不幸なことはありません。

ところがどうでしょう?この便利な文明の中に埋没し、ちよつと方向違いの教育の中でアップアップして、不平不満だけ言って暮らしている人のなんと多いことでしょう。

小学生でさえ、昼夜逆転して、ゲーム中毒のようになってしまう子がいるのです。まあそんなことに陥ってはいなくても、空虚で不安な毎日を送っている人はたくさんいるのです。

仕方ないから目先の刺激を追って「小満足」だけの世界に頭をつっ込んで行きます。「小満足」というのはすぐ使い果してしまう満足のことです。

ゲームばかりしている少年にお母さんが

さて、「一人前にしろ」について考える、最後の項目です。

ぼくは勝手に「AMH」で自分が育つ」と言っています。A(あそぶ)M(まなぶ)

和田重正言葉抄

人智で春が

呼べるでしょうか

あの、身も心も凍てつく厳寒を越え三月初めには池で蛙が鳴き、十日には鶯の初音が聞かれ、いよいよ春も開幕かと思ふ間もなく桃桜を過ぎ牡丹、藤、さつきとなり、続いて郭公と卯の花の初夏が間もなく駆足で来るでしょう。その間、花は萎み鳥は去り時に哀愁の情も味わいました。終わりが次の始めであり、始めは前の終わりとなって徐々に自然は生滅を繰り返しながらまた何百万年何億万年という大きなうねりをも造っています。

人もまた、自然の一部として自然の移り変わりに応えてその時々を力いっぱい生きるの

「たまには外の空気を吸ったら」と言うとお母さんはゲームの面白さを知らないからそんなことを言うんだ。お母さんもやってみたらこの面白さがわかる」なんてことを言われてしまいます、と度々聞かれます。そう

言われてやってみたお母さんには「ちつとも面白くなかった」という結果です。こういう生活をしている少年や青年がゲームを何時間もやって「深く満足した」と言っているのを見たことがあります。

満足の心が持続する「大満足」ではないからです。次から次へと新しい刺激が欲しいから、それを得るために「親と攻防をくり返している」なんて言う話をよく聞くのです。

「あそぶ」「まなぶ」「はたらく」ことの充実感、充足感、安ど感などの体験が不足してしまつたことは明らかです。

あそぶ・まなぶ・はたらくは一つのこと

実はこの三つの行為は一つのことだと思ふのです。自分が自分らしく生きていくための、

「持っている能力の発揮」なのです。道具を使う動物の話で興味深いことを聞きました。

さる、カラス、クジラなどの他何種類かが確認されているらしいのです。

細かいことを書いているヒマはありませんが、いずれも「あそび」から様々な能力開発が行なわれて、開発された能力はあつという間にその群れや一族に伝わるらしいのです。

「あそぶ、まなぶ、はたらく」がいっぺんに行なわれているのです。

人間だって常にこの三つの行為をやっているからこうして生活できているのです。協力し合つて、伝え合つて、自分の能力が発揮されることが大きな満足や喜びになっているのです。

ところが、その意味が分断されて理解されるようになって、殊に「はたらく」意味なんかは報酬のためだけに限定されてしまつて、「自分のはたらき」に気づけなくなつてしまつたのです。

人間の生活は満足度の低いものになっていきます。

が何をたくらむより幸せの道なのではないでしょうか。出はじめた小さな水仙の蕾を早く大きくしようと肥料を山ほど与え、防寒設備を施したらどうなるでしょう。外気に触れたら一たまりもない青ぶくれが出来上がつてしまいます。浅知恵のな

し得るのはその程度のことです。焦つて手段を弄するより子どもの中から催す力を尊びその成長を妨げないように私たちは一層謙虚でありたいものです。

(昭和56年
くだかけ二十八号より)

「あそぶことの本質」が失われて、頭も心も不安定になります。そして焦るのです。

「まなぶ」ことが楽しくない、「はたらく」ことも楽しくない。焦れば焦るほどケチ臭く、損をしようとするような気になり、悪循環していきます。ノビノビとイキイキと「あそび、まなび、はたらく」ことで健全な心は育つていきます。

時間をかけて あたためる

人間の精神活動の中でも「自分だけ得しよう」とする「ケチな根性」は実にやっかいな欲望がらみのものです。

時間をかけて、あたためようとしなからすぐ結果を求めてしまいます。

お父さんもお母さんも、結果ばかり求めな

いで、何事にも「時間をかけて」「あたためよう」と思つたとたんに生活の内容が変わります。そうすると、子どもの教育も「みずから学ぶ力を引き出す」というところに目が行くはず

自分で自分を教育する。自分が自分である意味を知る。

一口メモ

幼児が「おまごど」しているのはムダなことをしているではありません。とっても大切な時を育んでいるのです。「あそべない、まなべない、はたらけない」人間にならないために……。

あそぶ、まなぶ、はたらく、その中に自分の可能性を伸ばして行く芽があるのです。何かに行きつまつたら「あそぶ、まなぶ、はたらく」を思い出して下さい。

さて次回は、「お母さんの遠慮、お父さんのボヤボヤはどこから出てくるのか」といってお話をさせて下さい。